

## 事業目標と利用促進計画

生瀬地区コミュニティ交通（「ぐるっと生瀬」）が継続的な地域交通となるよう、次の事業目標を設定し、利用促進に取り組めます。

## 1. 重点目標

- ①生瀬における交通困難問題を解消する。  
→ 老いも若きも誰もが気軽に、安心して移動できる手段とする。
- ②生瀬における新たなコミュニティづくりと地域の活性化の一助を目指す。  
→ 人や地域(自治会等)をつなぐ生瀬のシンボルとする。
- ③上記のことを達成するために9自治会がともに連携・協働して行う。  
→ 持続可能な運行を行うために、採算性と利便性を重視する。

## 2. 事業目標

- ①収支見込
- |        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 年間運行経費 | 約700万円（税抜）※1日8時間247日運行      |
| 平均乗車人員 | 約67人/日 ※第3回試験運行の結果          |
| 年間運賃収入 | 約460万円（=67人×300円×247日÷1.08） |
| 収支比率   | 約66%                        |
- ※H27.10.1～H28.9.30を1年とした年間収支見込
- ②目標値
- |     |                              |
|-----|------------------------------|
| 1年目 | 平均乗車人員70人/日（第2回有料試験運行の結果より）  |
| 2年目 | 平均乗車人員85人/日（≒20995人/年÷247日）  |
| 3年目 | 平均乗車人員100人/日（≒24700人/年÷247日） |
- ※1年目は、第2回有料試験運行の結果をもとに、1日あたり平均乗車人員70人（年間約17,300人）を目指す。（試験運行より乗車人員が9人乗から13人乗に増えたことも勘案して設定）
- ※3年目に収支比率100%を目指す。  
（生瀬地域特有の高齢化率の増加、及び過去3回の実験による利用数の増加傾向から判断して設定）

## 3. 利用促進計画

- ①機関紙の発行
- ・発行日 奇数月の月初め（2ヶ月に1回発行）
  - ・印刷部数 4,000部
  - ・配布方法 自治会（定例会等）を通じて全戸に配布
- \*時刻表も全戸に配布
- ②HPの活用
- ・ぐるっと生瀬HPの運営
  - ・利用者の声、企画に対する要望等を掲載

③「ぐるっと生瀬」の PR 活動

- ・募金活動、敬老の集い、運動会、文化祭など地域行事への参加
- ・駅前のティッシュ配布、あいさつ運動などの実施
- ・その他、「生瀬に住んでよかった」「生瀬とコミュニティ交通」に関する住民の声や、キャラクターマスコットの募集等の実施を検討

④住民を対象とした交通座談会の実施

- ・各自治会にて住民を対象とする座談会を開催
- ・テーマは「地域交通が地域を変える」「地域交通で生き甲斐が生まれる」
- ・「ぐるっと生瀬」の取組みを説明するとともに、利用者の声を聞き、運行サービスの向上等に努める

⑤幼稚園児、小中学生を対象とした利用促進

- ・生瀬幼稚園、生瀬小学校、塩瀬中学校において朝礼、全校集会等で「ぐるっと生瀬」を紹介し、ご家族での乗車を奨励
- ・幼稚園児に地域めぐり乗車体験や小中学生を対象とした座談会の開催を検討
- ・保護者を巻き込んだ利用促進策の検討、将来の担い手の育成、地域を愛する心の醸成に努める。

⑥その他

- ・理事の研修のため、勉強会などの実施を検討

4. 達成状況の評価

- ・市民生活や地域公共交通等の社会を取り巻く環境の変化は早い昨今、本事業計画で掲げた事業を着実にかつ計画的に実行するために、設定した目標が達成できているかについて定期的に評価を行う必要がある。そのために、計画を実行に移し(Do)、その結果・成果を評価し(Check)、見直し・改善を加え(Action)、次の計画(Plan)へと繋げる、いわゆるPDCAサイクルを実施していくことで、持続可能なコミュニティ交通の実現を目指す。